耕雲漁隱傳

全

二九一〇

三十

伊地知文庫
文庫20
297

此十とせあまりを白河の東花頂山のほとりに幻貨と
かくし泉石に心をすましてしつかにすみけるに
応永十あまりつゝ五の年やよひなかは雨降
侍るころ雲ハ好鳥とよつ花の庭におとつら
く時物さひしき柳の糸のなひきすみかたかり
永山の花をしらす佛の御をしへき法談のはしの
やまとうた道にもくらくつけてしはれるほとに
彼みち道をおもふにさらに有としあらん人ぞ
是をあしかるまじき事なし斎の照
又我その細腕ハ其道乃ことにおもとさけたまひ

伊地知氏書冊
文庫20 297

あさくりよりして報豊岳事宗乃代ゝりはさえ
猶ゟ進信しまえ謝す是そのゝおもゝぬ徒はん識
上の好所にあらぬといへ先霊の語ともおもひ
あらず猶もあら數ならぬ身としてある我道にあれども
高山とおもふ景行おもむくる心そし仰ぎ道やむ
打よりはたかくきかりみなりてゞいかんまたまつよ
物まふし是とし平昔く六七八歳乃昔しうき先
者内大臣けさるきくのひとの下とどめられるを
やはくし物ゆすうひまみ此みらはのさるん
猶んきゝ徒し猶よ道の徒應りもちえる

もと紀のんなし給しとも風骨なりおうかをく
弱冠乃きたる文武の大殿にあひくて世の猶も
夢夜になりていとの一きわりまうのやつき
そくて徒乃道ともおうちらえそて夢に見たのわく
なりとひあかくてはる生死大事の至まくを心
手かてかまつくて年月をかさねしなりしよ代々に
古しすしまるくて末代のいひよ及ききたり
信列乃中書王と申しきと猶しいかけ清くを
かうしけるさ後醍醐の御門清子に絶るる世大道
大納言師母ハ勝従三位為子そりし中書院とかゝり

てしらせ奥よ伝を伝ひ[illegible]よし道のうまれ幻滅
ゝ世をかりそめ[illegible]ゝ朝夕親近してこの
道を問ものしるしるかの月次のやまと歌ゝ
やまとこゝろ花のこゝろをよみけるゝ家々りの力量も
よけりや協ゝ新集撰定乃ことゝ[illegible]
ものゝ[illegible]ゝ雲水漂泊の
かゝる有世をこゝ学ひ[illegible]ゝ皆
生れしのこゝゝみ[illegible]ゝ道の秘事口授
師からとゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ師伝とゝ[illegible]
う為一筋用ハいまゝ[illegible]ハ[illegible]

ゝみ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ一形捨わ[illegible]
くゝゝと此道切こ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
ものゝ事ゝ[illegible]ゝ伝ゝ[illegible]
修行後事事用[illegible]
万物の性ハ不生[illegible]ゝ生滅[illegible]ゝ性万
理を具足ゝ此一性ハ天地よ[illegible]
[illegible]ゝ天地[illegible]
是万物の根源也和哥[illegible]
つらわ[illegible]ゝ[illegible]
天地わ[illegible]ゝ[illegible]

天ニ付山川草木ハ地ニ付て日出て日入て
始て天地乃内りあるわさ何事によらす
乃道をそなへるや吟詠して花をあはれとおもひ
みもしハ詠することにあらされハ和哥と云ふ事二義へつ之
哥乃喜称ニハあらさる人一読して日本の道理あるを
古人説をもつて神明佛法菩薩聖衆説ふらく
こころさしとの人にハ深理ありふかくはかられめ
哥三十一字ニ詰めたるニ付て懐紙の首尾あり懐紙を
てふハ生得あふひ出す事のとりそろしくもの懸ゆ
ひやうしこさなり　不堪といふハ心さらに深ついて

志すハ何事ても懐紙を先のは先の功をも隠しまおそれた
体なる技を了もあまた道をもつて是は不堪をもちて是を
名もしらすハ目につくものとてもかりてゆるく
懐紙の志をさとくとくそれすなる也或ハ生得によりて
志り或ハ詠をもちいて當座功をなすに及ふらく
ひとはかりと書物よりてもよけれも也道人の嗜み
利根の人も一向ニ語も絶句の人もうつさをとき人を
古為に寄附の実情ニ叶ぬれはしこて生得ニ心こ
ニ詞やさしき人の懸る古乃物をつくるの自ら是道
あそいつくあくうりき人古今ニおほしてそ寝食を忘れ

若事と言葉にて胡笳風の琴を聞し事
乃文なれども
一大事を心うけるに人のいつも胸中の大疑問乃
わからぬ事くふくわつて殆ん奇にうつる
うけもつ奇乃席めのそて彩よりしく人の詩
其打節にゆる空のくうに雲れしまるの清よ
うし風乃夢雨のごとなるのゆんつまくく
ゆし夏なる風情のうつるんものみてき
ふく花水付く初物んれ人のふく行雲れ雲と
いそすく

一奇と称する時代歌年よりよく事心よりつかる詩人
の理うり詩こつりハ方乃物れよりうく人の教て
する所あるすされらいあして五代集れらハくわ
ゆうと私なくうちうゆうて四日し
三百篇れ詩の性情を吟詠したるうちに
それら振奇道理ろくく中古まれ千ゆん
ひうと詞もゆし又代集の事みて後撰拾遺乃
二のハいうみやうう古事れよりつまゆうも
和歌集乃うれ彩よ紀貫之後撰頼ゆまて此道
中無ういんや西川と人後撰ゆ定家つみて拾遺

大聖人也これあらく新古今の集又俊頼合えて
しかれはひうつきぬる絵らく出らく淳古乃風一變
しうみ絵られてし古詩を学ひくさしてあるとも
出さるは昔乃人の口ちえめくとかうあ哥乃みらは
いうくられ續さんされなかりくさうへしくて級
好乃心を業しせとへし絶好きはふとて人間をのそ
乃目用をてらみ作すさく人の心ひうつさぬ好をますり絶
猶しのめ心をとまはひくうりとてうなとすか聖徳のとすと
るさへりれはひらくにぬ付く一重のこえころと
案しもさ千古人乃玄心のうらみんと撰しとえゝ

先ゝ心緒をよして案出しても絵のへとみうく
とくはめとくん嗜乃こゝめし重ね背く散よ五十二位と
而しみ得らゝ古こしまうと哥は心をなとしするまた
にすへ人らくく弁説をもくみみ容儀らく文章草紙流云
おゝ哥しは言葉のたふかし

一 詞とみうく用ふる事

詞ハ哥しは文字のかさら也後撰拾遺ハ金葉詞花乃
さらをひそてハ詞きまちよくは絵なきとえとも詞を
えらぬ事をよらとく哥乃もとをうみてきた
俳らり君臣合非時節到来するみうすれ新古今

乃一集心の泉みなもとふかきものは詞の花色ハ
ふかく人の目をおどろかし人の耳をよろこばしむ
ことに錦繍を織なし金石を合奏るに
似たり然るを又わかやまとのやさしき詞は人の耳に貫之と
本とするみかどにて極上代達者もみな心ゆるし給
かくれたる詞にまつりしたれはおほくの哥人
あはれと思ひあはする心の事を詞に伝へてさらに
はかなからぬやうなる文字の哥章にゆるすはか
てら天地をうこかし鬼神をもやはらくるはたまさ
先心得玉ふへしみた詞なから文質彬々なるへき哉

なりと孔子もとかれ侍る詩に楽しかうくてらん
其心得をこころえくわしく詞あやなすこともひ
十分にわきまへ詞になすにも表にあらはさる
ともへりとも上手めでたきを下にしたるにはれ
たる文程上下に心ばへある人は見ゆるさし
詞より心を先に面白く吟詠すれば雨気
やさしく感情を出ておもしろきにまゐること古人の詞は
よみ詞をえらみさへ先は先文あるまじき先達を
とくにはれぬくちならてうするなれば貫之の哥
一首を廿日卅日ようやう十いてたるをいひはなへする

心を艶にそ侍えしひろくみえておろかなる百餘詞と
ちそくたへく綺語をまじへんにもつまてくわしくなりたるは
いつくなされはくよくいとひも詞とらにさまに十分の事をのせ
詞に千代集を石下出としてよ能も世乃まり
なりかみ世るとしても所枝くるをきりはさせ
そいふべきまでうつしもゆかしく心のしるし詞や
あるは後撰乃集の詞源にへなむ大論ならす
継ぎ古今後撰乃調をのまともに渡あるき詞をも不
可缺之一首有ところのいさくしみはならぬとも代
集なんにはなくて其詞をみなかどめつつおそまはして

我力を入てくんとそくとまさぬすあるいはとゆあらみに
とくをみえいつりや文よきる右に晩と古詞とを
くわの風情とのくししくくなすかに手継とき
なり此歌連歌乃詞は源寄によりてくしくしまあり
是寄の浦遊によりたる基也しかし乃連歌は寄に
もれん

とらむみよ人やらて浦でならひとをさされん
ちらへていかぬ花のいろらの鄙

と材ならやかへいよう下此句と寄りよりぬるを為し
と根の連寄と寄ようしといふ又其乗もと

るゝ叶色く千首の詞とみすにかくすに歌人の道に遠
寄りとは寄りも遠ゝ人とゝ色ゝあるやまと寄又古今
寄此ハ道元と寄寄よわくす
一本寄取様之事
古よりさ事なし中古よりこのかた也古今集の寄に古今集
集の寄に同程なる歌乃こゝハ本歌ハきゝくいるなし此
百首のさゝくしゝみとやつけく國ゝくゝしてこ
志錦よそくかゝ本もなしたるかゝむる乃寄をひとしさし
有とし此法詩家よも有黄山谷ゝ點南の十段ハ白楽天
ゝ詩をあらく或ハ三四字或一字ニてもよろしく後字説
判しゝく楽天ハ法喩よもし　山谷常哉よもとよりと
乃世よ本寄ならハ是よ足也喩ハ三百篇此詩ハ荘情
をよ派しつつのめくく物ゝよろしくかろしと李杜
韓柳ゝ詩ゝみゆるハ詩書百家の詞さゝみて蘇
陶謝ゝ詩をとゝりゝくゝとくくはなゝを云せゝそ
今此三の乃本寄の寄よ寄叶ゝ乃寄とハ無難なる
まし意雅ハ季よと人もして詞うりを取
とらとわつしくるしくゝゝむきとゝる本寄よら
ちくゝる歌
いろゝ世を本これ秋あまの此なれくし深

まうしゝ之へしむらさめんのゝ

走乃るをもきんとは事ありかゝまされ

さふかし女人ゝ去十よ此まち川山

いそくひハ意を事をおしら例ありほ乃句ハ古結よ

まき見り又同季京物をれ人くに行へしくなきぬ

きハ西日そり

大道ハ梅か香ひよ誰つ出もくて人見此の月

かり上ハちくみあ之ゝ月也又西ひゝ此頃乃松凡

此西首ハ其事をとく行ゝ好照悦角し

さしゝうや新米の秋此夜て月なくよ[illegible]

松姫

足子年くとはせ世中くみ同唱ふ事松秋凡

荒又大意お事し例なり

又其句此月乃よ玉をくてさハ風吾月有く此去

あゝ垂ゝ昨晩の事もくうにへしにかくしくれそ

よゝめたも見

首你の法も九し九月出事親的出ゝ事よ

断サもく道ハ人同車の今心の花深まく袖

此そくひ事をそめ人よか分其句乃もちむなかむよ

捲行ゝ人くれかも荒をいそさハ結ハとすち西し

又此句もよ見はいまて奇作よらて此人の心さゝる

哥ハ人首ゟ哥をよくおくりいはくり出まハその門
うらよきも哥よ他としも満てしにハ雅語をも誹諧よ
あしく西行傳り姿ぬたる手のおよろ処せ葉し
ゆくも哥の鬼極ハ粗心而のし
一當座乃哥もも附てん候まし
題をぬ首ゆらくしなそゆくをさにくも附ハえ上をて
み見んさらして代詠ゆハかくらも人一し歌詠出てハあの
風情をめくりをすしとよれきみ心おくらはなうく
聊葉らくく後出の家の安あへちん題を思よ今
能く葉と人てしゆあのもき首尾さりよ絶奇をまま波

んくとらくもらんよ一座の哥治らろへちらん附我歌よ
まあぬ音有らくらちも化よとさへみかりよすきされくハにくらん
速て出へら寸お首乃御前の御會よハ二首より統と
めて作程よ上徒乃人殊大事くまろ身よみ出すて次の
人よ硯とゆつかに恥とてそ古人ハこら合よかりくとま
ましく一座の哥治出来らん中一首後出へらん
事よ世數恥辱たるへ清輔朝臣ハ後人の為やまきて
一首後とうれるをるよりて世よ傳りぬ所の哥さまよう
哥をよくてあらむとく出來ゆけりも中く好ましきし
さも候よも其こぬよ一座をおきへんも古禁の

極めし

一菊日出題乃時の見様事

菊座お題の時ハ雑念よりともらぬ坂菊葉落ちかけて
中しくろ〳〵事も出来之菊日の時ハ余日宜之擬を
て何時とくもなきを談法しくくらも雑よ無のすらひ
うかれ君子仕雅草木合し対面しうすとしる雑よ
頭日年行くりめく驚菜しるおらて此菊花とも
いつれきらぬ所く又さらさ内る寿といろ手けよ
他人ハ用意ぬくしく葉色ら中出おりもるもの
浅く人まいきとみぬるまハ道もおく此座武いて

うるへし此題をくらんいぬ菊座此花ひとつのく
葉しくもへおよう偽不震苦み何くうめすく去梅
待ぬとけるとも心程ろうへし柳世菊座色日の白菜ね
誰もんゆうへまうらうとわくらしく道をとおもふ
そみれらかやなきさる〳〵へハさしかくぬとなれそもや
もとよ余まわやまりともるを瘧疾よ不犯くる継席り
我をあさくへ白くへ菁立代の時為唐とらう余侍
り蜀よ趣ろうみ大鉞門小鉞門まと険難と海ら
時く馬よもろゆきしせいく又ひよさいく取よ送り
事ゆへうくるけらら蜀乃都よ商都とら山ハ平地中くも安く

[illegible]

一初学の人古今の和歌を見て意味をしらずして
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ハ上ヨリ乃風[illegible]ヲ[illegible]ヲ徴記ヨリ[illegible]
[illegible]ノ人ノ[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヲ[illegible]ヲ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]古大師八歳[illegible]彼大師八歳世八道大師云
[illegible]なるの時乃茂弼宮乃法師乃下乃一門の人と
他家乃小舎人雅入道中納言小舎人[illegible]東
[illegible]遺跡京極[illegible]毎月乃斎法報恩
不闕の法[illegible]時可縁よりて其所の
乃[illegible]幻[illegible]身[illegible]
[illegible]教章此人を一[illegible]
[illegible]たる得[illegible]
口伝[illegible]古双紙一[illegible]
[illegible]也又[illegible]

古義よりの人倫をやうけ影神を感し
しるこそ此道の淵源なれ極[illegible]
[illegible]乃身[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

昔延宝己巳
霜月吉日

養察